

## とるべきポジションの声明

個人の移動と環境へのアクセスは、基本的人権である<sup>1</sup>。移動に障害のある人は、環境へのアクセスを改善するための車いすやシーティング用具の使用により、日常の作業を行うことができるようになる<sup>2</sup>。

世界作業療法士連盟 (WFOT) は、移動の用具類を必要とする人たちが質の高いサービスの提供を使えるようになること主張する。こうした用具類は、最良で利用可能なエビデンスによるガイドラインに基づいたものである。作業療法士は、個人、その家族、介護者の自律性と中心的役割を、サービス提供プロセス全体を通して尊重する。適切で使用可能な車いすやシーティング用具へのアクセスを促進することにより、作業療法士は、人々がより生産的になり、自分に力があると感じ、レジャーを楽しみ、自分たちの社会や文化的環境への参加を拡大できるようにする。

## 作業療法にとってのポジションや問題の重要性についての声明

作業療法士は、車いすやシーティング用具の全般的サービス提供について熟練しており、個人のニーズは広範囲にわたる製品のなかに多様にあることを認識している。作業療法士は、継続的に包括的なクライアント中心アプローチを採用する。このアプローチでは、正しく適合する用具を得るために、個人のプロフィール、優先事項、ニーズ、作業、環境を考慮する<sup>3</sup>。

作業療法士は、自宅、リハビリテーション施設、地域の場面など多くの環境において、車いすやシーティング用具のサービスを提供する。次に役割をあげるが、これに限られるものではない。(1)包括的評価の実施、(2)ポジショニング、姿勢サポート、肌合い、機能、安全性についての個人的ニーズの明確化、(3)アクセス拡大のための用具の適合と環境調整、(4)安全性と効果的使用についてのユーザーや介護者のトレーニング<sup>4</sup>。

## 社会にとってのポジションの重要性についての声明

作業療法士は、個人が意味のある作業を行うことが、社会全体と同じように価値があると認めている。世界には、車いすやシーティング用具を必要とする人が7000万人以上いると推計されている。このうち5~15%の人だけが、適切な移動の用具にアクセスしている<sup>5</sup>。WFOTは、こうした用具を提供するための技能をもった専門職が、世界中にもっと必要であると考えている。車いすやシーティング用具に関する質の高い専門教育が、ユーザーや介護者の利益につながるという研究がある<sup>6</sup>。

## 要約と結論

作業療法士は、参加を可能にするエキスパートであり、車いすやシーティング用具を必要とする人々のニーズを代弁して主張 (アドボケート) する立場にある。WFOTは、人々が自分の環境に自立して、安全に、適切に自由にアクセスすることに喜びを見出すことができるように、現在の最良のエビデンスの教育と活用を促進する。そうすることで、作業遂行を拡大し、満足度を高め

<https://wfot.org/resources/occupational-therapy-and-wheeled-mobility-and-seating-devices>

2022年10月 吉川ひろみ訳

る最善の成果を達成することになる。

#### References

1. Márton SM, Polk G, Fiala DR. Convention on the rights of persons with disabilities. USA: United Nations. 2013 Oct 16.
2. Smith, Emma M., Brodie M. Sakakibara, and William C. Miller. "A review of factors influencing participation in social and community activities for wheelchair users." *Disability and Rehabilitation: Assistive Technology* 11.5 (2016): 361-374.
3. Toro ML, Eke C, Pearlman J. The impact of the World Health Organization 8-steps in wheelchair service provision in wheelchair users in a less resourced setting: a cohort study in Indonesia. *BMC Health Services Research*. 2015 Dec;16(1):1-2.
4. Sarsak HI. Developing wheelchair training program for rehabilitation and occupational therapy students. *MOJ Yoga Physical Ther*. 2018;3(4):79-83.
5. World Health Organization. Wheelchair service training package. Switzerland: WHO. 2012.
6. Fung K, Miller T, Rushton PW, Goldberg M, Toro ML, Seymour N, Pearlman J. Integration of wheelchair service provision education: current situation, facilitators and barriers for academic rehabilitation programs worldwide. *Disability and Rehabilitation: Assistive Technology*. 2019 Apr 23.

#### Contributors

Hassan Izzeddin Sarsak (Saudi Arabia)

Paula W Rushton (Canada)

Ronald Lee Kirby (Canada)

Mary Goldberg (United States of America)

Wei Qi Koh (Singapore)

Tecla Mlambo (Zimbabwe)

Josefina Aramburu (Argentina)